ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

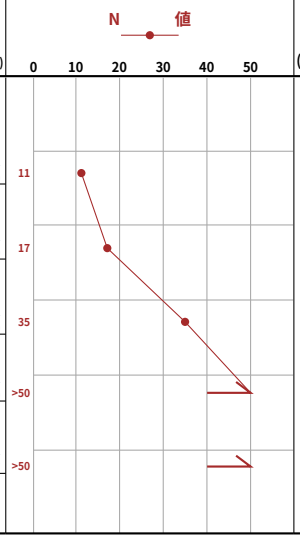
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-3	調査位置				北　緯	36 ° 37 ' 50.6300 "
発 注 機 関	栃木県　烏山土木事務所			調査期間	2008-07-14 ～ 2008-07-15	東　経	140 ° 11 ' 47.4900 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	167.96 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	5.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	166.61	1.35	1.35		表土 (SF)	暗褐			火山灰土(ローム)を主体に、φ10～50mmの砂岩角礫及び砂質分を不均質に混在する。成層の不均質性からは崖錐土砂に区分できる。		
2	165.56	1.05	2.40		強風化砂岩 (S)	淡灰			風化が岩芯まで達しており、著しく脆弱な性状へと変質され、礫混り粘土状のコア形状を成す。		07/15 2.40
3					風化砂岩 (S)	灰			岩種判定が容易な風化頻度となり、岩芯に至る組織破壊の頻度は少なくなるが、硬度的には軟岩質でφ5～20mmの礫状と固結粘土状コアによる。		
4						暗灰			深度-3.7mより、明らかに岩種判定が可能となり、硬度も中硬程度でダイヤモンドビットの試錐が不可欠。不規則なヘアークラックにより、コアは修復可能な片状～礫状を主体とする。又、部分的ではあるが、割れ目沿いに破砕箇所を残す。		
5	162.96	2.60	5.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N 値
1.15	3	4	4	11／30	11
1.45					
2.15	3	4	10	17／30	17
2.45					
3.15	11	12	12	35／30	35
3.45					
4.15	24	26		50／20	>50
4.35					
5.15	15	35／7		50／17	>50
5.32					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/14
						07/15